

ISIJ|JIM

男女共同参画合同委員会

男女共同参画合同委員会活動報告 および連絡会アンケート結果の報告

田中龍彦

東京理大、男女共同参画合同委員会副委員長

合同委員会の歩み

鉄鋼協会
男女共同参画委員会準備会
H18.1月～

金属学会
男女共同参画検討委員会
H15.10月～

H18 9月：合同シンポジウム開催
学会期間中託児室共同運営

- ・連絡会：女子高生向けイベント参加
- ・学会期間中託児室運営
- ・合同委員会HPの立ち上げ
- ・育児と仕事の両立に関する情報配信のためのML
- ・合同委員会ロゴ作成

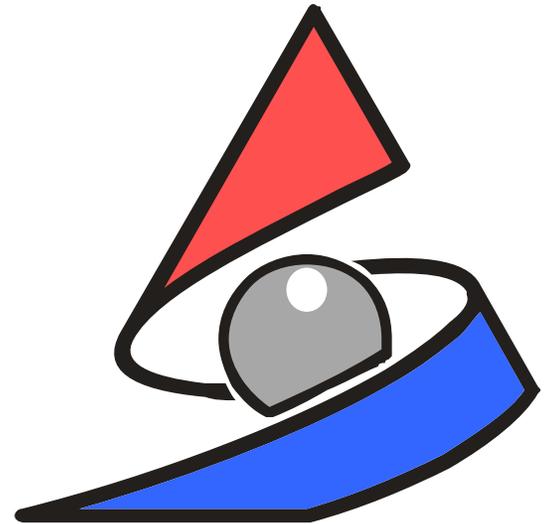
合同委員会ロゴの意味

- 対 男女の共同参画
- 螺旋 「上昇」と「生命」
- リボン 金属の圧延板



Concept : Roll - metal

基本的なモチーフは、圧延された鋼板です。
委員会の活動が周知され、今後の発展することを期待して上昇する螺旋としました。参画だから、三角という意味もあります。
また、赤系・青系の男女／上下に対になることで、共同参画のイメージとなるように意図しています。(男性が女性を支える意味合いで、下が青系になっています)。



アンケート結果 (概要)

学協会名	会員数	回答数	回答割合%	学協会名	会員数	回答数	回答割合%
バイオインフォマティクス	518	203	39.19	地盤工学	10,656	314	2.95
発生生物	1,431	423	29.56	応用物理	24,885	659	2.65
遺伝	1,147	321	27.99	電気化学	4,055	101	2.49
女性技術者フォーラム	174	48	27.59	火災	1,453	36	2.48
動物	2,646	714	26.98	金属	7,524	175	2.33
細胞生物	1,434	381	26.57	応用磁気	2,704	49	1.81
日本女性科学者の会	338	89	26.33	地球惑星科学連合	30,471	531	1.74
蛋白質	1,248	326	26.12	石油	3,527	54	1.53
比較内分泌	433	113	26.10	土木	37,933	544	1.43
生物物理	3,675	867	23.59	精密工学	6,090	74	1.22
植物生理	2,279	496	21.76	建築	33,793	378	1.12
結晶	1,160	217	18.71	鉄鋼	9,787	101	1.03
地球電磁気・地球惑星圏	737	137	18.59	自動車技術	41,712	154	0.37
分子生物	14,924	2,772	18.57	その他		4,276	
植物	1,972	349	17.70	機械		787	
進化	1,382	235	17.00	情報処理		532	
バイオイメージング	394	61	15.48	無所属		413	
神経科学	4,808	683	14.21	分析化学		160	
繁殖生物	834	110	13.19	映像情報メディア		116	
水環境	2,325	293	12.60	日本科学者会議		90	
生態	3,982	483	12.13	顕微鏡		90	
魚類	1,168	141	12.07	種生物		78	
錯体化学	1,030	124	12.04	生態工学		72	
生化学	9,893	1,154	11.66	水産増殖		41	
生理	3,029	272	8.98	液晶		31	
糖質	1,051	94	8.94	データベース		23	
宇宙生物	507	45	8.88	プロセス化学		20	
育種	2,121	177	8.35	照明		17	
森林	2,480	205	8.27				
高分子	12,042	784	6.51				
物理	18,638	1,111	5.96				
天文	2,988	169	5.66				
化学工学	8,671	450	5.19				
電子情報通信	34,971	1,792	5.12				
原子力	7,240	342	4.72				
数学	5,049	207	4.10				
化学	28,083	1,036	3.69				

1. 2007年8月21日～11月20日に、男女共同参画学協会連絡が実施した、第2回アンケート調査に参加。

2. 総数 14110名 の参加で、
(男性:10349名、女性:3761名)

回答女性比率 27%

金属学会 175名(女性比率19%)

(男性:142名、女性:33名)

鉄鋼協会 101名(女性26%)が回答。

(男性:75名、女性:26名)

3. 設問は、96項目＋自由記述

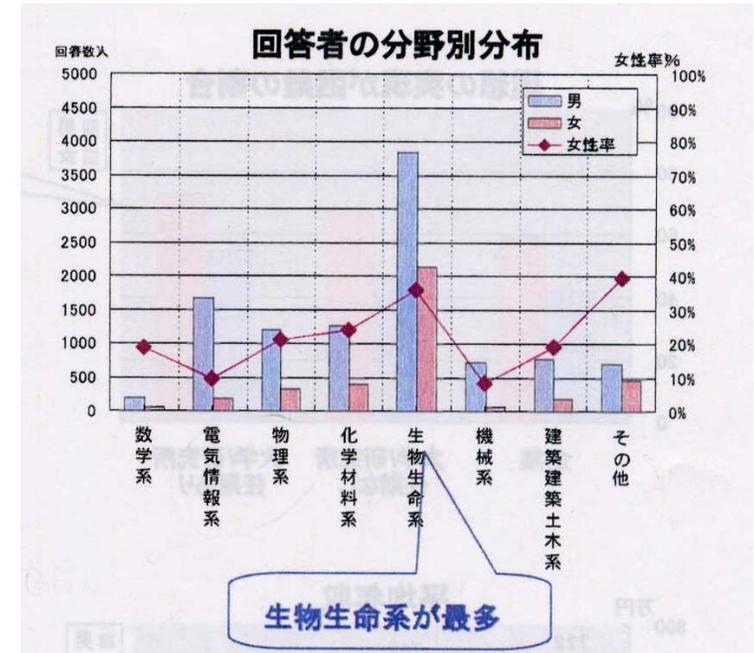
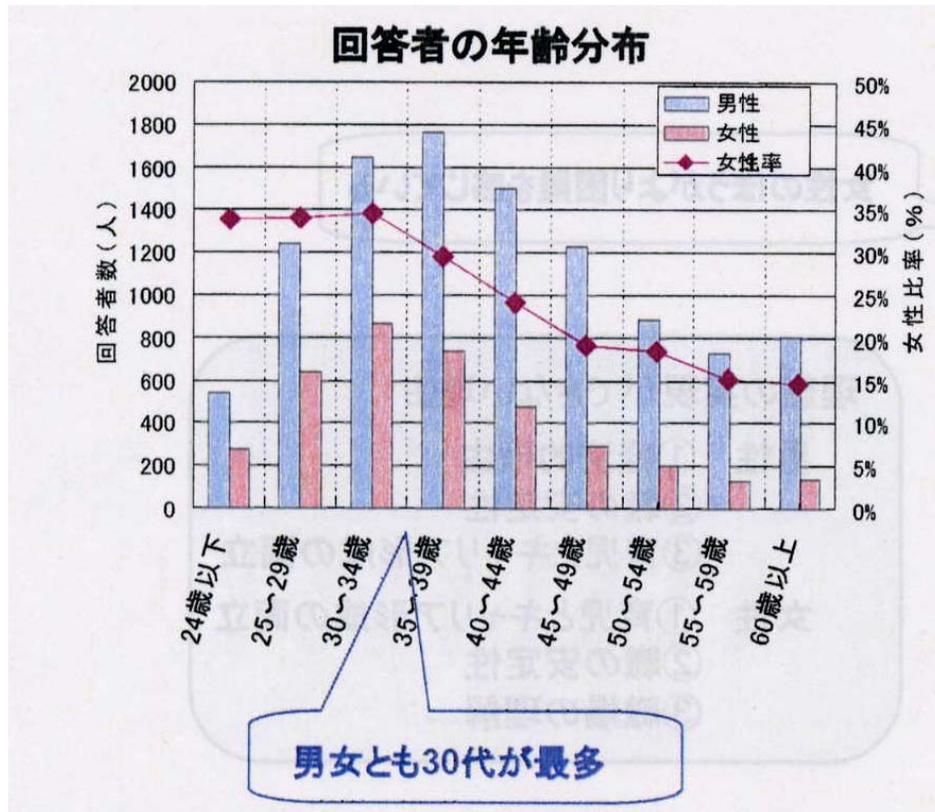
基本事項 30項目

任期付き職 16項目

育児支援 24項目

最近の施策 26項目

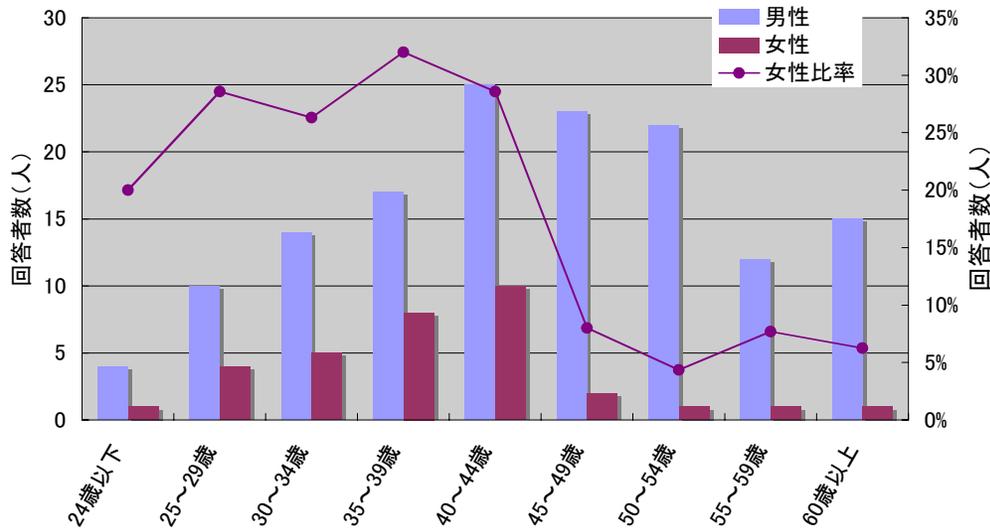
回答者の年齢・分野別分布(学協会連絡会全体)



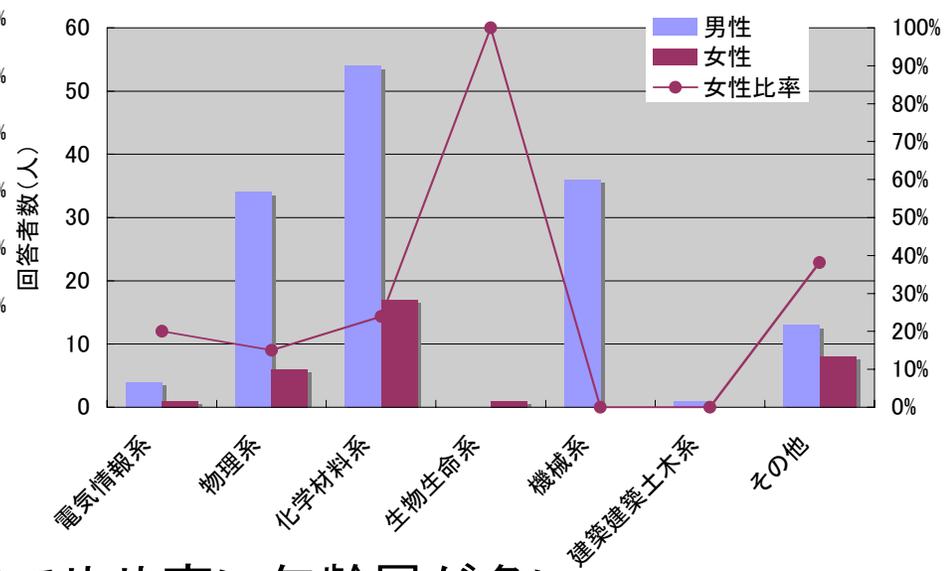
回答者の年齢・分野別分布(金属学会)

金属学会会員数は約5,800人、その内女性会員は約2%
 今回のアンケート回答者数は175名、うち女性は33名(18.9%)

回答者の年齢分布



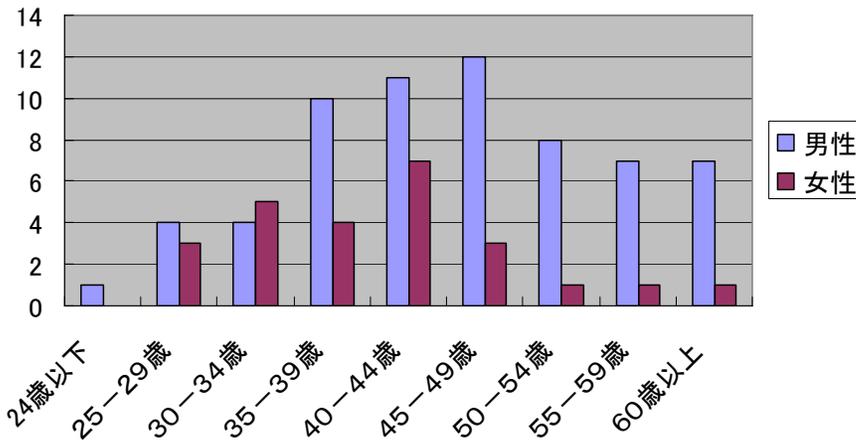
回答者の分野別分布



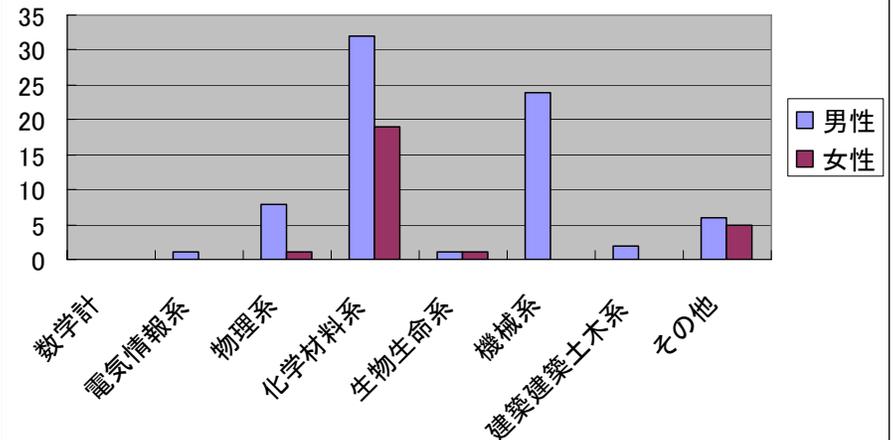
- 金属学会員の回答者は、全体に比べてやや高い年齢層が多い。
- 分野は約4割が化学材料系、物理系と機械系がそれぞれ約2割。

回答者の年齢・分野別分布(鉄鋼協会)

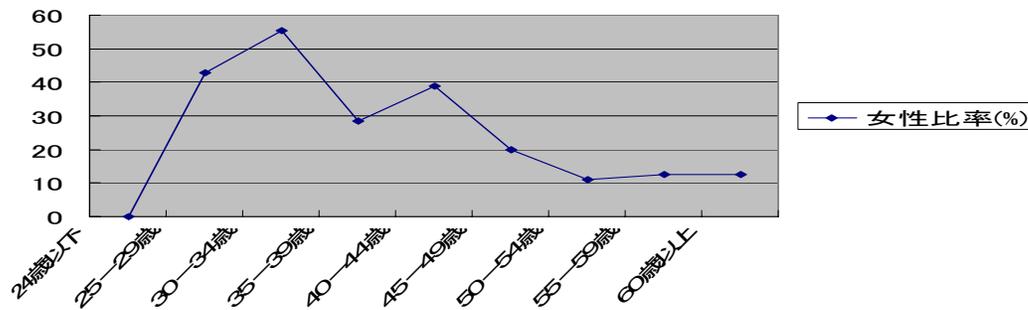
鉄鋼協会 回答者の年齢分布



回答者の分野別分布



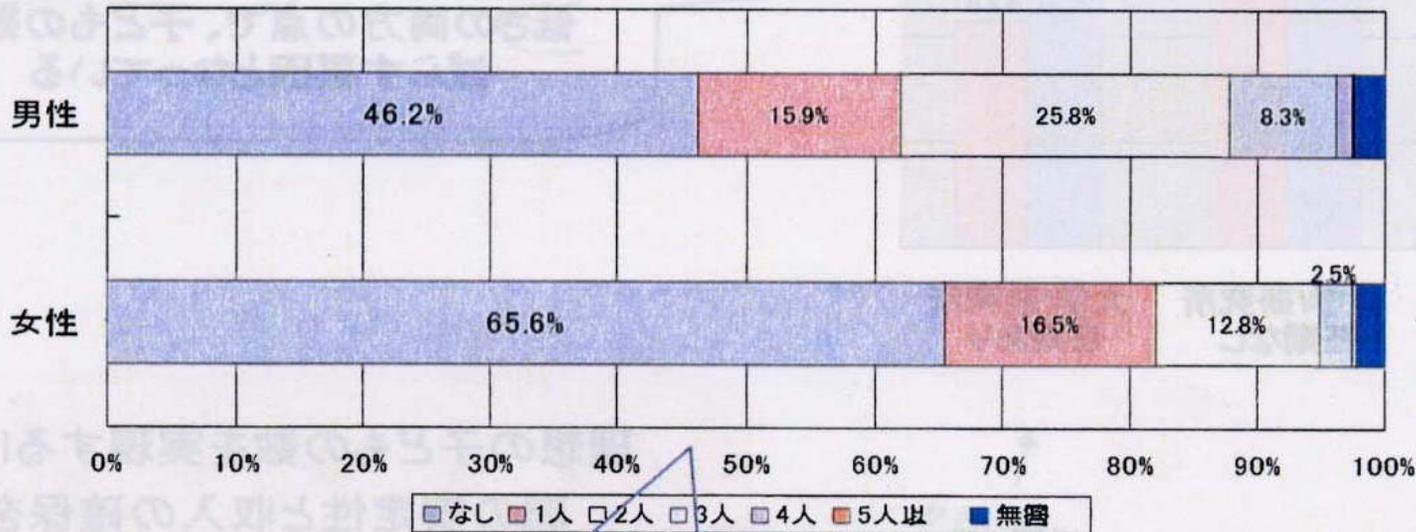
鉄鋼協会 回答者の女性比率



- 鉄鋼協会は、男女とも40才代が最多
- 鉄鋼協会は、男女とも、化学材料系が最多

子どもの数 (学協会連絡会全体)

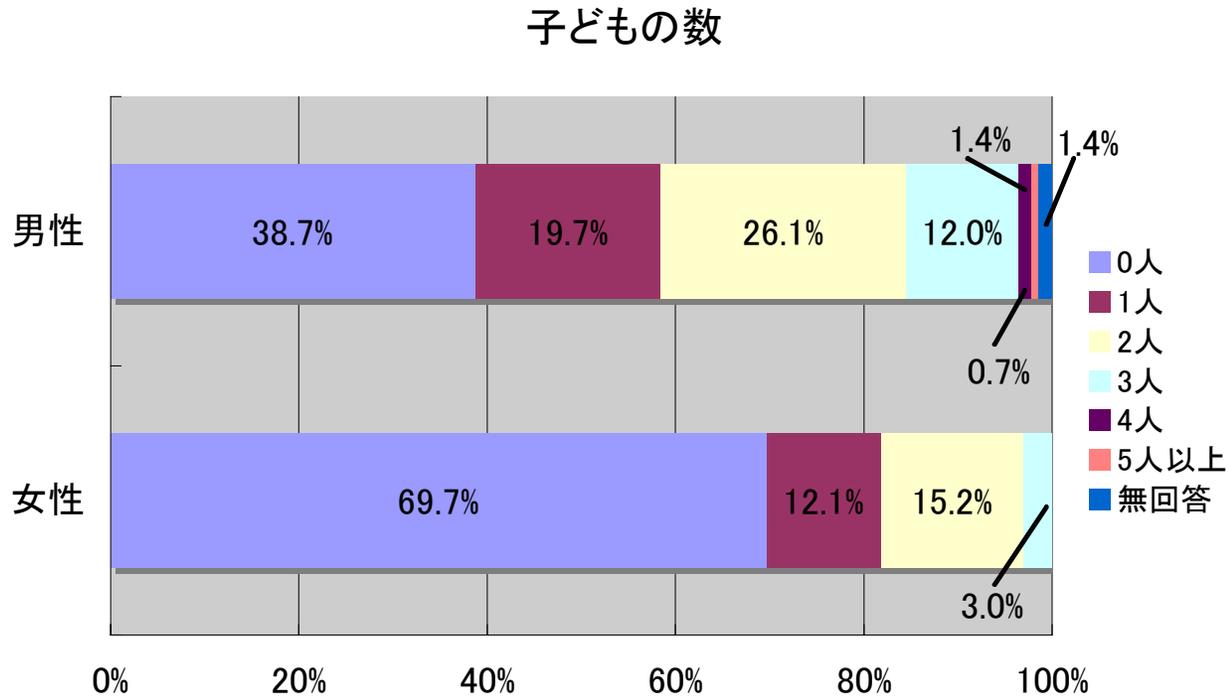
子どもの数



子どもの人数の全世代の平均は
男性 0.99人 女性0.51人

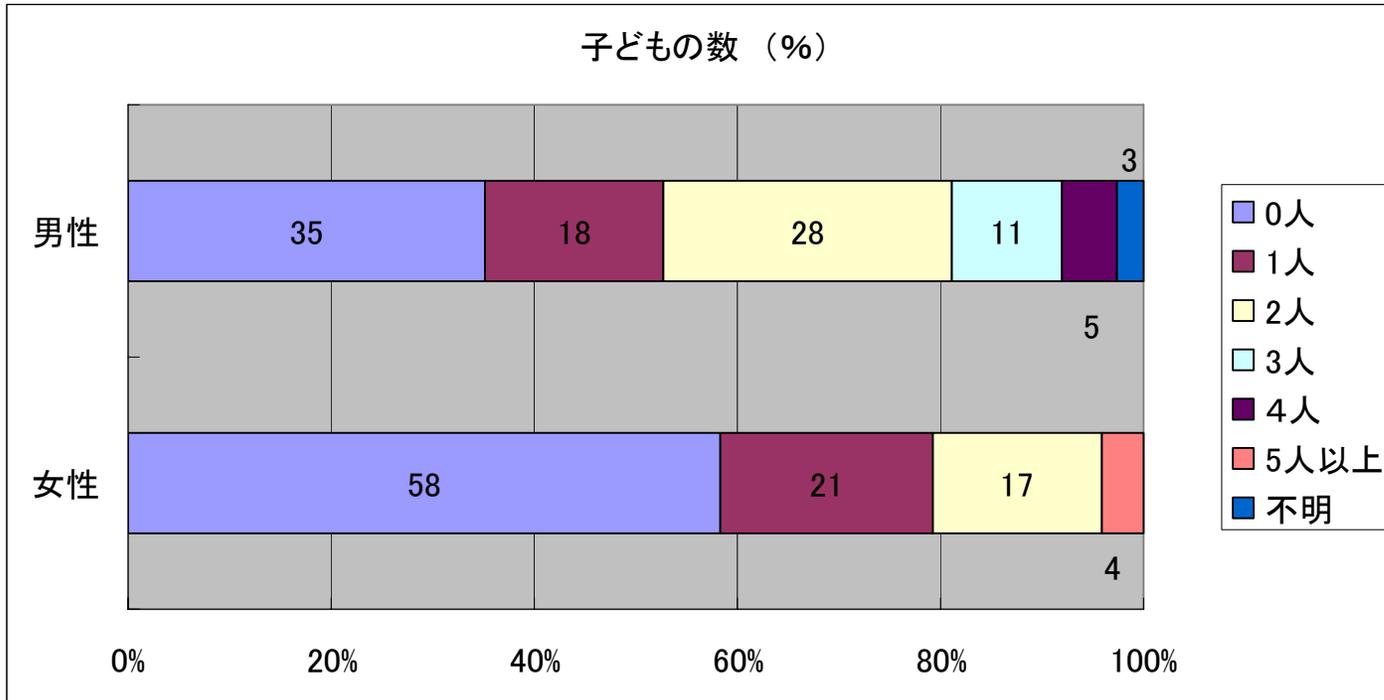


子どもの数（金属学会）



■ 男性は全体に比べて子どもの数が多いが、女性は全体の結果とほぼ同じ

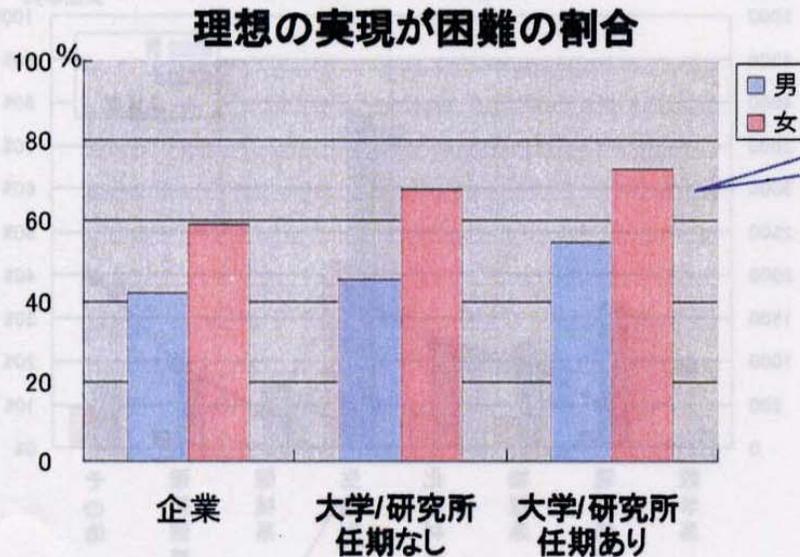
子どもの数 (鉄鋼協会)



子どもの数の
全世代の平均は、
男性 1.28人
女性 0.75人

■鉄鋼協会は男女とも子どもの数は全体より多い傾向

子育て世代の子どもの数 (学協会連絡会全体)



女性のほうがより困難を感じている

理想の実現ができない理由

男性 ①経済的理由

②職の安定性

③育児とキャリア形成の両立

女性 ①育児とキャリア形成の両立

②職の安定性

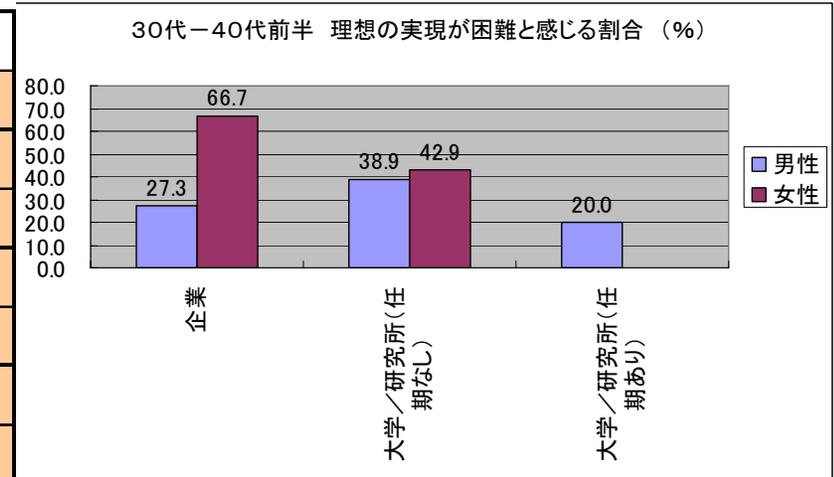
③職場の理解



子育て世代の子ども数（全体と鉄鋼協会）

30代～40代前半（～44才） 現実と理想の子ども的人数（人）

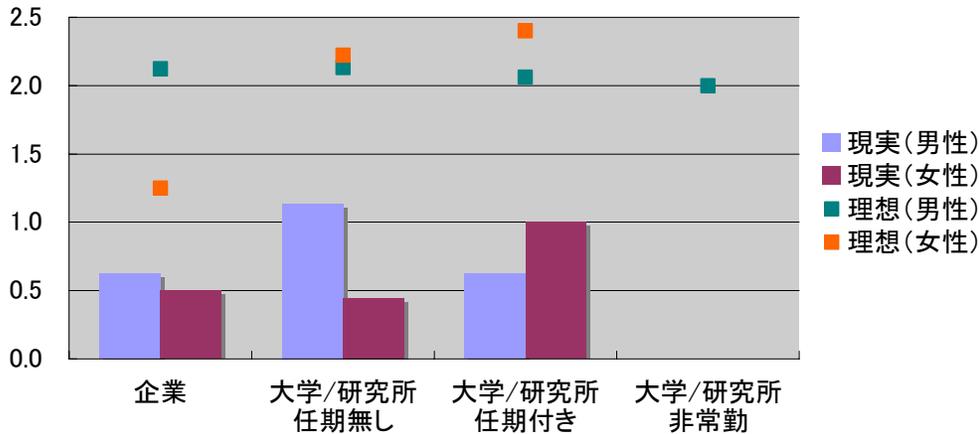
		鉄鋼協会		全体	
		現実	理想	現実	理想
企業	男	0.5	2.1	0.9	2.2
	女	0.7	2.2	0.6	2.0
大学/研究所 (任期なし)	男	0.8	2.4	0.9	2.3
	女	0.3	2.4	0.6	2.1
大学/研究所 (任期あり)	男	0.6	2.0	0.5	2.3
	女	—	—	0.4	2.1



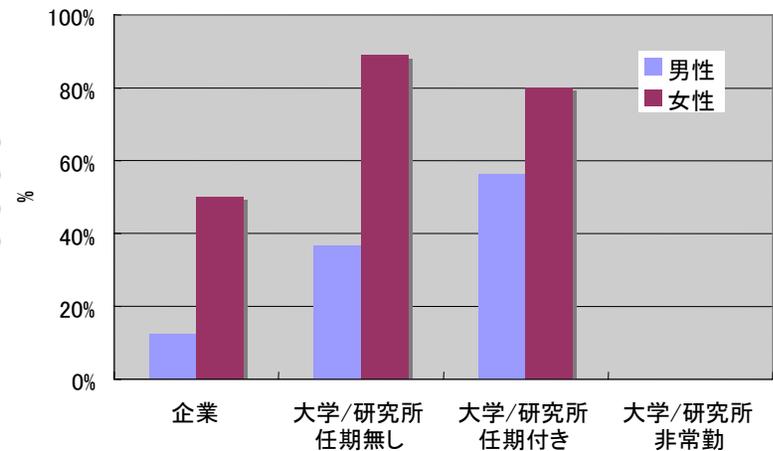
- 理想の半数以下の子どもしか持てないのが現実
- この傾向は、全体も鉄鋼協会も変わらない
- どちらも女性の方がより困難を感じている

子育て世代の子ども数（金属学会）

子育て世代の子ども数 理想と現実

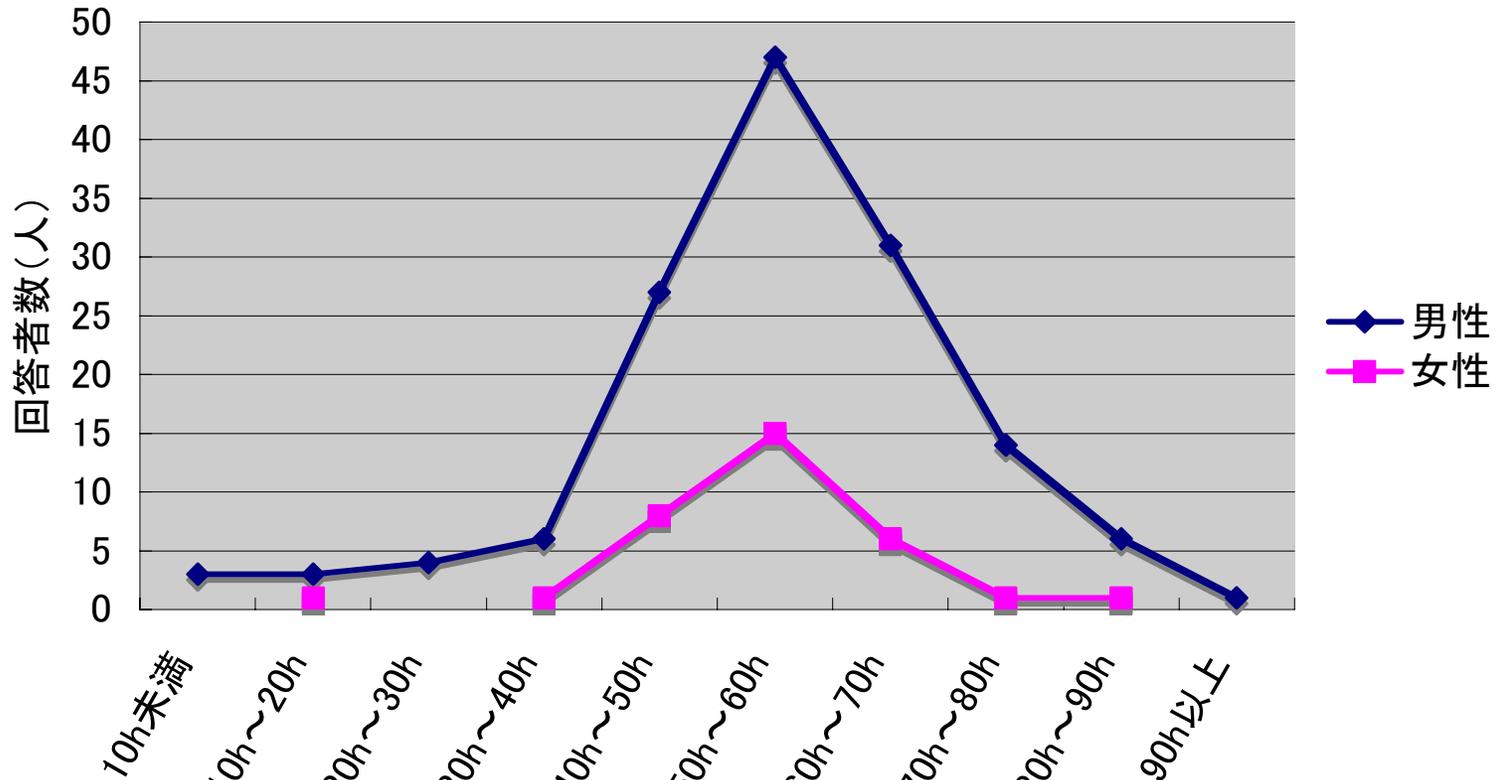


子育て世代 理想の実現が困難の割合



- 子育て世代(30代～40代前半)の子ども数は、大学/研究所 任期付きの女性が全体の結果の倍であった。他は全体の結果とほぼ同じ。
- 全体に女性の方が理想の実現が困難だと感じている傾向は全体と同じだが、大学/研究所 任期無しの女性の比率が最も高い点が異なっている。

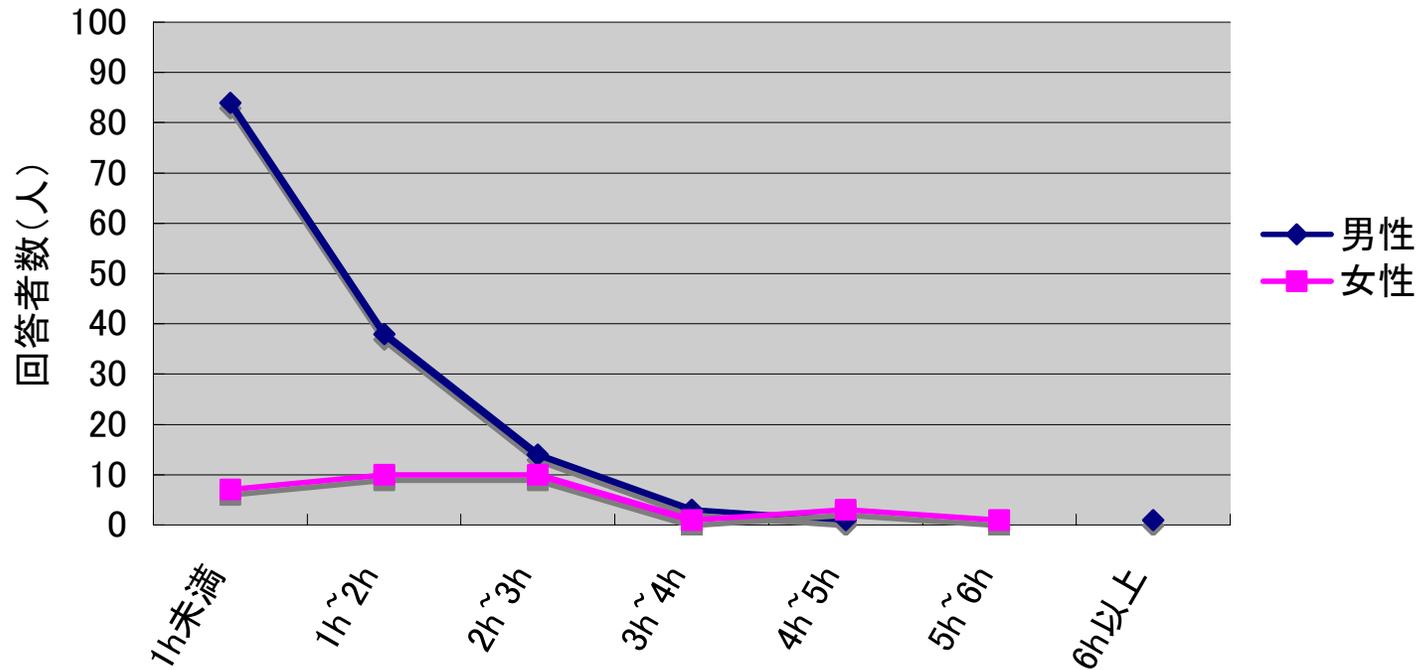
職場にいる時間(金属学会)



■分布が最も多いのは”50～60時間”であるが、男性の方がやや長時間職場にいる。

家事・育児・介護にかかる時間(金属学会)

家事・育児・介護(1day)



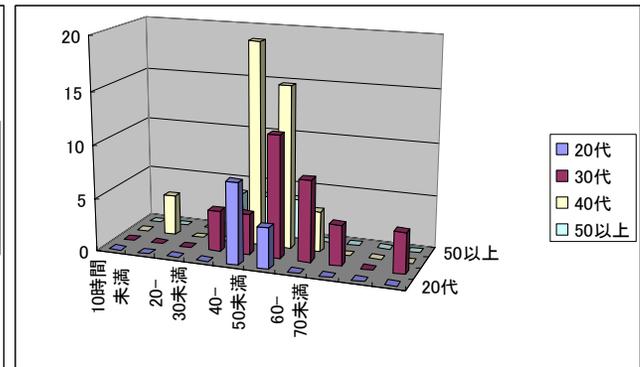
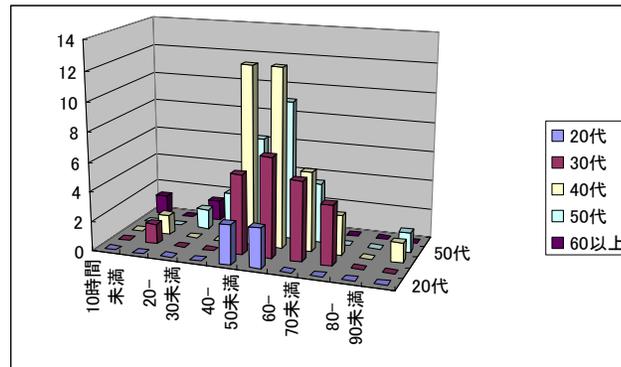
■女性の方が長時間側に尾を引く分布となっている。

職場にいる時間 と 「家事・育児・介護」の時間 (鉄鋼協会)

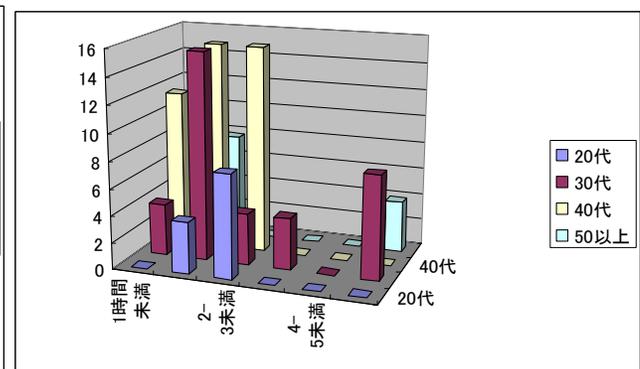
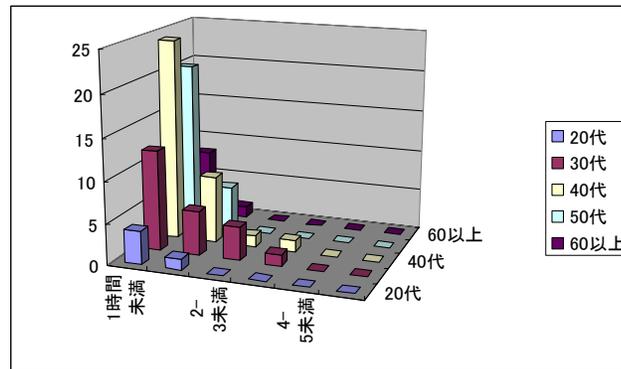
男性

女性

職場にいる時間



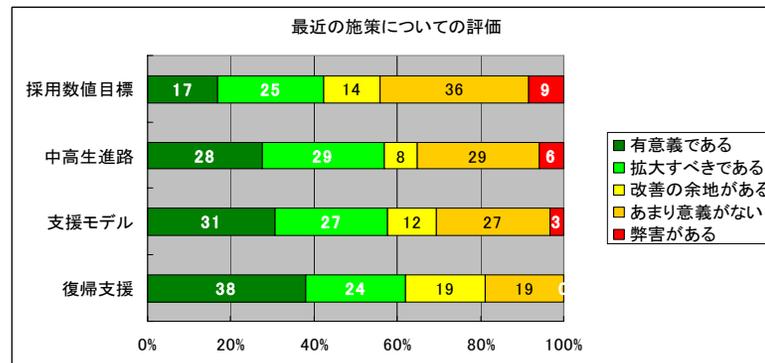
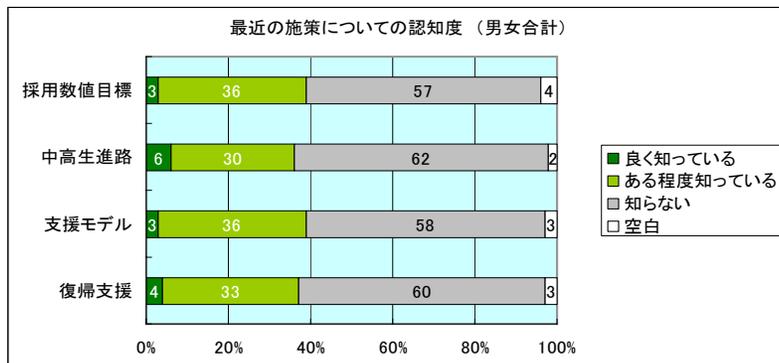
「家事・育児・介護」の時間



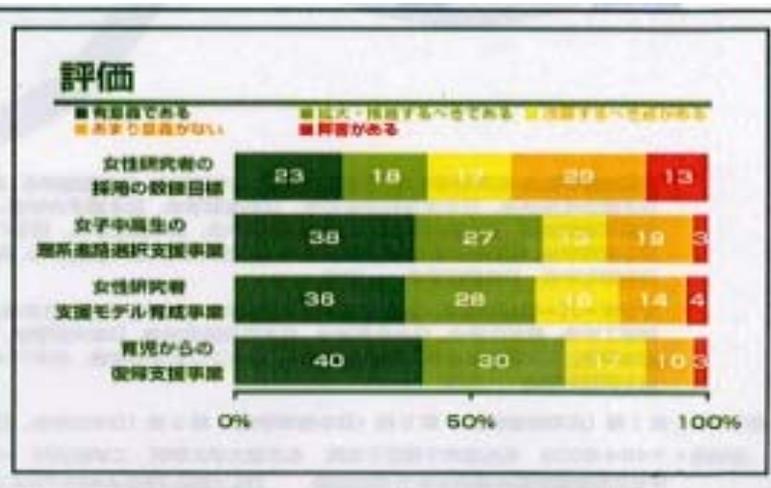
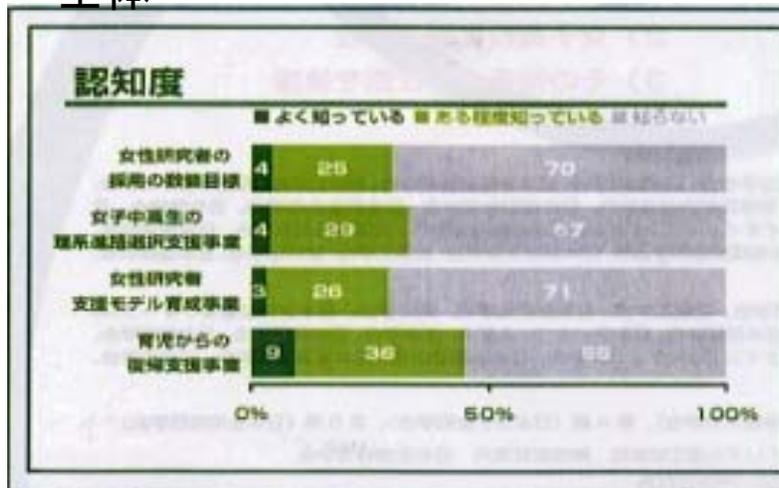
男女とも 職場にいる時間は 変わらないが、
「家事・育児・介護」は 女性に負担がかかっている。

最近の施策の認知度と評価 (全体と鉄鋼協会)

鉄鋼協会

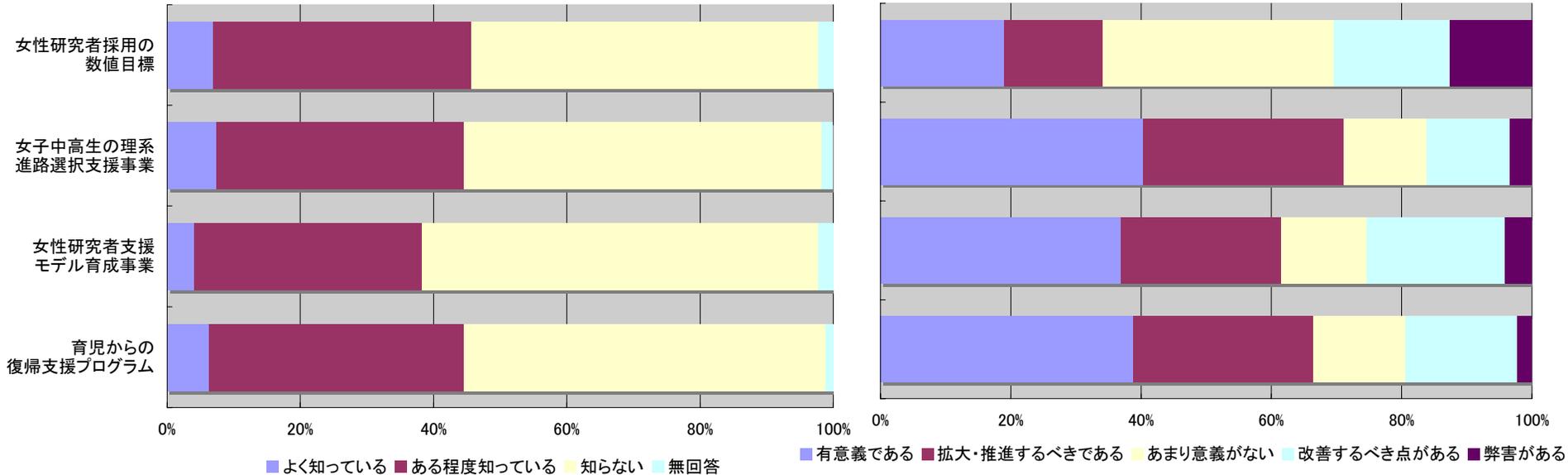


全体



復帰支援の認知度が若干低いですが、全体と ほぼ同等の 認知度、評価

最近の施策についての認知度と評価(金属学会)



■最近の施策については「知らない」が過半数を超えており、大変残念な結果となっている。

■女性研究者採用の数値目標に対してはやや数値が低いものの、概ね肯定的で、全体の分布ともほぼ同じ。

合同委員会ができること

- 男女共同参画に関する世の中の動き・情報を学会員に配信すること。
- シンポジウムなどの開催により産官学をつなぐかけ橋となること。
- ロールモデルを紹介したり、イベントを企画することにより女子学生、女性技術者、女性研究者をエンカレッジすること。

以上